デジタルアーカイブ学会　第6回研究大会企画セッション

セッション 2. 多様な担い手たちによる地域資料継承セッション　概要案

合同会社AMANE

第 6 回研究大会第 2 部企画セッション

日時: 2021年10月16日 (土) 10:00～12:00　会場: 東北大学災害科学国際研究所

【企画提案者】

堀井 洋・堀井美里(合同会社AMANE)、後藤真（国立歴史民俗博物館)、高橋和孝 (奥州市教育委員会)、
野坂晃平(えさし郷土文化館)、産学官連携に基づいた地域資料継承支援事業

【企画趣旨】

日本国内には、文書や民具など多様かつ豊富な学術資料が現存しており、それらは学術研究の観点のみならず、教育や産業など社会の発展に資する重要な資源である。しかしながら、急速に進む地方都市の過疎化・高齢化および地震や台風などの大規模自然災害の影響により、地域に現存する学術資料（地域資料）の保存・継承に関する状況は厳しさを増していることから、地域資料継承のための新たな実施体制の確立が喫緊の課題の１つである。

提案者らは奥州市域において「産学官連携に基づいた地域資料継承支援事業」を２０２０年から実施している。本セッションでは、産学官が連携した”多様な担い手たち”による地域資料・アーカイブズの調査・整理に関する現状と、今後の地域資料継承事業の継続・展開に向けた展望を報告する。さらに、地域資料継承は地域を問わず社会全体で共有すべき課題として捉え、学術研究者を含む多様な立場・役割の人材が関わる継承事業の意義・あり方や、デジタルアーカイブを基盤とした資料情報の公開・共有など、地域資料継承の実現について会場全体で考えたい。

本セッションの目的

1. 「産学官連携に基づいた地域資料継承支援事業」の概要と奥州市における活動の紹介

2. 地域資料およびそれらの保存・継承に関する現状・課題の理解・共有

3. 地域資料継承に対する多様な専門人材の関わり・デジタルアーカイブを基盤とした情報共有など、新しい観点・試みの提示

セッション構成

1. 挨拶・趣旨説明（堀井・後藤）（１０分）

2. 発表（各１５分）：それぞれの当事者として
   「産学官連携に基づいた地域資料継承支援事業」に関して
   歴博総合資料学・khirinなどの紹介（後藤）
   奥州市における資料調査活動の紹介（堀井美里）

   奥州市を事例とした地域資料保存・継承と課題と今後の展開
   奥州市域の資料の紹介と連携事業への期待（高橋）
   信仰や民俗等からみた地域資料・文化の活用と地域間連携の可能性（野坂）

3. ディスカッション：多様な担い手たちによる地域資料継承のこれから（５０分）

議論の出発点

日本国内には、多種多様な歴史資料・文化財が現存し、それらは重要な学術研究資源としてのみではなく、社会的な振興・発展に資する文化資源しても注目されている。

戦後の高度経済成長期からの変化

- 急速に進む人口減少・少子高齢化・地方の過疎化
- 大規模自然災害の発生・感染症の流行
- 公開・利活用など歴史資料・文化財に対する社会的要請の変化
- 情報通信技術の発展および人文情報学・市民科学など新しい概念・分野の創出
- その他、様々な変化・転換

歴史資料・文化財の保存・継承においても、
社会の現状・変化を反映した、新しい概念・枠組み・手法・・・の模索と確立が
必要ではないだろうか？

ディスカッション

1. 課題・現状の共有
2. 新しい資料・文化継承の確立
3. 私たちそれぞれの役割・展望